

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 4270105325 | | |
| 法人名 | 有限会社メディカル葉山 | | |
| 事業所名 | よなわグループホーム | ユニット名 | I・II |
| 所在地 | 長崎市岩屋町25-7メディカル葉山ビル4F | | |
| 自己評価作成日 | 平成27年5月2日 | 評価結果市町村受理日 | 平成27年7月14日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------------------|-------|------------|
| 評価機関名 | 一般財団法人 福祉サービス評価機構 | | |
| 所在地 | 福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F | | |
| 訪問調査日 | 平成27年5月27日 | 評価確定日 | 平成27年6月10日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームを開設してから、今年で14年目を迎える。長崎北部に位置し、幹線道路より1本入っているの
で、大きな騒音もなく近隣には住宅が並ぶ。中学校、高校もあり、学生達の通学路になっている。JR道ノ
尾駅、バス停も近く、銀行、郵便局、病院、大型店舗など利便性のある地の6階建てビル内4階に「よな
わグループホーム」はある。職員は入居者様の立場になって、思いを受け優しい心で明るく対応してい
る。食事は調理専任者を中心に家庭的な味に工夫し提供している。入居者様からは「美味しい、楽しみ」
となかなか好評である。他の部署を合わせ、毎日看護師が常駐している。夜勤も同様に配置されてい
るので安心である。昨年11月からスタートした訪問診療も看護師が主にサポートし、医師との連携もすか
りとりしている。高齢化が進む中、ご家族の希望があれば、看取りまでさせて頂いている。

「グループホームよなわ」はメディカル葉山ビルの4階にあり、ホームからの見晴らしも良い。明るい職員
も多く、職員の結束も良くなっており、日々の健康管理にも取り組まれている。雨が続く時期には、ご利
用者が“てるてる坊主”を作って外出できるように祈ったり、サッカーワールドカップの時は、ご利用者
の方々が朝5時に起きて、日の丸旗を振って応援する事もできた。日々の食事は手作りで、ご利用者
の方から「美味しい」と好評であり、昔を懐かしみながら、つわむきを手伝ってもらったり、お茶の袋
詰めをして頂いている。おやつが得意な職員もおられ、バレンタインにはチョコバナナやトリュフ等
のおやつ作りも楽しまれた。今後も介護保険の制度論を習得し、記録物を充実させると共に、医療
連携を続けながら、ご利用者個々の有する能力を引き出していく予定である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|--|----|---|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 職員は、毎日申し送り時に理念を唱和し、併せてサブ理念も各々心に留め、理念の実現に向け日々取り組んでいる。 | 「家庭的な雰囲気の中で安心した生活の実現をめざす」という理念を掲げている。22年度に作られた「優しい心と笑顔で寄り添いましょう」というサブ理念も大切にしており、買い物や散歩を楽しまれている。季節に応じてツワの皮むき等もして頂いている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | ホームの行事等の案内、挨拶をし近隣の方々に理解して頂くよう努めている。 | 毎年恒例の夕涼み会では、スイカわりやししゃぼん玉、花火などを地域の子供達と楽しまれた。小学校との交流会は5階で行われ、子ども達が考えた遊び(カルタ、おはじき、けん玉など)と一緒に楽しむことができた。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | エレベーターの中にホーム紹介や、見学の案内等を掲示している。ご近所の方々にも親切な対応を心がけている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 認知症サポートリーダーの方にも参加して頂き、集いの場として意見交換している。避難訓練の際にはお声掛けし、参加して頂いている。 | 地域情報を共有する機会になっている。火災対策の話し合いや岩屋地区のサロン(にこにこ会)等の報告もあり、葉山地区の婦人防火クラブの取り組みを共有することもできた。ホームに来られる福祉理美容師の方も参加して下さい、仕事の説明をして下さった。 | 今後も派出所や消防団等、議題に応じて参加者を検討していく予定である。市民大清掃や学校行事(運動会、文化祭)の参加も希望しており、会議を通して地域行事を共有すると共に、地域交流の方法を検討する予定である。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 認定調査の時、介護相談員の派遣の際には日程調整等の連絡を取り合っている。 | 会議には地域包括の保健師の参加もあり、ホームの事を理解して頂いている。集団指導の時に制度改正の研修を受けており、不明点がある時は電話で相談し、アドバイスを頂いている。すこやか支援室から介護相談員も来訪している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束委員会を設けており、問題が生じた場合はすぐに対応出来るようにしている。玄関の施錠をしていたが、現在は取り外している。 | 安全対策委員会の中に「身体拘束廃止委員会」もあり、身体拘束廃止の話し合いをしている。ご利用者の喜怒哀楽(行動障害)に寄り添うと共に、ご利用者同士の関係性も把握し、ご利用者全員が笑顔で過ごせるように努めている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 研修会に参加した職員は学んだことを、ミーティング時に他職員に報告している。月1回、個別にケアカンファレンス、モニタリングを実施することで細かい点等も把握するよう努めている。もし虐待を発見した場合は、ただちに報告する仕組みになっている。 | | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修に参加し家族の話に耳を傾けるようにしている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時は重要事項説明を丁寧に説明している。特に利用料金や医療連携体制の実際など、事業所のケアに対する考え方や、取り組みなどを説明し同意を得ている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 入居者、ご家族の意見を聞くために「声のポスト」を継続設置している。ケアプランの説明時に必ずご家族の要望や意見を聞き、サービス計画にも反映している。 | 面会時などに「何かありませんか？」と尋ねている。家族から“居室の場所等”の要望を伺い、ご本人の気持ちも大切にしたい検討が行われた。“よなわだより”と手紙を交互に作成しており、家族も楽しみにされている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 1ヶ月に1回の管理者会での各部署の意見報告を出し、反映させている。記録に残しており、いつでも見られるようにしている。 | 行事・レクなどの委員会活動で職員の意見を反映すると共に、行事の企画書を提出して頂き、内容を吟味した上で承認している。管理者会議では職員の補充や異動などの方向性も共有し、職員の人員体制を整える取り組みも行われた。 | 職員個々の目標等を掲げると共に、職員個々のストレスやモチベーションを含めたチェックリストを作成し、個別面談をしていく予定である。系列事業所全体の質の向上を目指しており、介護保険法の知識も身につけていく予定である。 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 諸事情による勤務変更、希望休なども認めており働きやすい環境作りに努めている。年1回の健康診断、夜勤をする職員は年2回の健康診断を実施しており、職員の健康管理に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 採用時に10日間の業務実践シートを用いてトレーニングしている。職員の人材育成のための資格取得や研修の参加を積極的に勧めている。職場内でも伝達講習が行われ共有されている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 市の連絡協議会研修に参加してミーティングの場で発表し、職員間で共有している。 | | |

| 自己 | 外部 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|--|---|--|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 職員は、常に不安におちいる事が無いように気がけ要望を伺い入居者の気持ちを理解するよう努めている。又、傾聴する姿勢で良い関係作りに努力している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族より、ご意見、要望など伺っている。日常の面会の中でも、気軽に会話できる雰囲気作りに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人やご家族の不安が少しでも軽減できるように要望や思いに対応している。十分なアセスメントをとり、より良いケアを目指して当ホームで出来るサービス提供を提案している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 洗濯物をたたんだり、広告紙でゴミ箱を作る作業を、入居者様と職員がともにするなど、関係作りに努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 必要に応じて通院の同行をお願いしている。面会時に近況の報告をしたり、よなわ便りや、入居者様の様子が分かるようお手紙や、写真をお送りしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 定期的に馴染みの人が来所されており、職員も会話の中に入り楽しい雰囲気作りに努めている。 | 日々の暮らしの中で昔話を伺うようにしている。ホームには神父様がクリスマスに来て下さったり、ご利用者の同級生や知人と居室で団欒する機会が増えている。友人と手紙のやり取りがあり、手紙の投函などを職員が支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 何でも言える関係作りに努めている。トラブルが生じた場合には、職員が間に入り対応出来るようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所された方の息子様(知的障害)が週末に来所されているが、お話を傾聴している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 思いや希望を常に聞き、申し送りなどで職員全員が把握できるようにし、サービスプランにも取り入れている。意向が聞けないときはその人にとってどうしたら一番良いかを職員間で検討している。 | 団欒時や入浴時、居室を訪問した時など、ご利用者と1対1でゆっくり話す時間を持ち、ご利用者の思いの把握に努めている。言葉で意向を伝える事が困難な方には表情等から把握する努力を続けている。今後もアセスメントシートに生活歴を残していく予定である。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | アセスメントでご本人・ご家族から生活歴など、出来るだけ情報を得るようにしている。入所後は、ご本人との信頼関係を築きながら徐々に把握するよう努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 1日どのように過ごされたか個人記録に記入し、常に申し送りなどで職員は情報を共有している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 3ヶ月毎にプランの見直しをし、モニタリングは担当職員参加のカンファレンスを行い、確認見直しをすることで次のプランに活かしている。 | 計画作成担当者(ケアマネ)が中心となり、計画を作成している。自宅での生活状況や性格なども家族から教えて頂き、楽しみや役割を持って頂くようにしている。生活リハビリの視点もあり、“散歩”等も盛り込まれている。 | 今後も介護保険におけるケアマネジメントの理解を深めていきたいと考えている。アセスメントを充実させると共に、ご本人の望む暮らしを把握し、介護計画に活かしていく予定である。課題分析の結果も記録に残していく予定である。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個人記録、日報、バイタルチェック記録を実施しており、申し送り等で職員全員が情報を共有できるよう努めている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご本人、ご家族の状況に応じて通院介助などの支援を行っている。お買い物に同行してもらい、食品などを選んで頂いている。 | | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 多機能スペースを日曜日開放してもらい、入居者様の楽しみ作りを支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | よなわ医院が休診になる際に、入居者様、ご家族に今後、かかりつけ医が変更になる説明をし、納得して頂いた。現在訪問診療の体制をとっている。 | 複数の医師の往診があり、主に看護師が医師との情報交換を続けている。歯科医師や歯科衛生士の訪問もあり、口腔ケアも行われている。系列の3事業所の看護師と連携ができており、3事業所の夜勤者の中に看護師も勤務する体制ができている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 常に看護師が常駐している為、職員間との連携は行き届いている。夜間の急変には看護師が対応出来るような体制がとられている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には看護サマリーや情報提供書を交付し看護師が入院に付き添っている。退院時は病院関係者より情報提供書を交付してもらい、戻りの際のダメージを少なくするようにしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 必要な段階で、ご家族と十分に話し合い、医師、看護師、職員のチームでのケアに努めている。 | 「ここで最期まで」と希望する方もおられる。看護師が交代で勤務し、24時間の緊急連絡体制も取られている。体調に応じて点滴や胃ろう、酸素療法も行われ、随時主治医からの説明も行われている。少しでも口から食べて頂けるようにプリンなどを召し上がって頂き、家族も一緒に誠心誠意のケアを続けている。 | 今後も更に、系列事業所全体で医療連携の在り方やホーム内看護師の役割等をマニュアル化していく予定である。看護師と介護職との連携を深めるために、介護職への医療知識の向上に向けた取り組みを行う予定である。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変の場合の連絡網を作成し、対応出来るようにしている。マニュアルを作成し応急手当や初期対応に努めている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている | 避難訓練を実施し、火災が発生した場合の職員間の連絡網を作っている。運営推進委員会の方に避難訓練を見学して頂いた。業者の方より消火の方法などアドバイスを受けている。 | 毎月の防災訓練を続けている。点検業者から避難誘導の指導を頂き、職員全員が消化器の取り扱いを体得している。災害時はエレベーターが利用できず、まずはベランダに避難し、消防署の到着を待つようになっている。災害に備え、飲料水・カップ麺・お粥等を準備している。今後も自然災害を想定した防災計画を検討すると共に、消防団等との協力体制も進めていく予定である。 | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 基本は敬語使用だが、失礼のないような言葉使いを心がけている。職員は守秘義務の契約書を交わしている。記録などには他者の名前はイニシャルを使用している。 | ご本人が不在でも、訪室の際は必ずノックし、声かけてドアを開けている。ご本人の意思決定を大切にされており、ご利用者が自分で決めたり、選んで頂ける言葉かけをしている。言葉遣いや個人情報管理にも配慮している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ご本人が困難なようであれば、いくつか提案しながら自己決定がしやすいような支援を行っている。観察を十分に行い、表情などで訴えをキャッチ出来る様努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ご本人の思いや、ペースに合わせるように心がけている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 2、3ヶ月に1回訪問美容サービスを取り入れている。外出時には着たい服を選んで頂くよう声かけしている。お化粧品やマニキュアをすすめたり、手伝っている。心配りのある男性美容師にかわってから、入居者様も心待ちにしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 体調不良時、食欲がない時は、好きなものを伺って提供している。出来る限りでのテーブル拭き、食材の皮むき等の声かけをしている。 | 調理専門の方が献立を考えている。旬の食材を採り入れ、週1回はパン食にしている。プランターで栽培しているレタスなどを収穫し、新鮮なまま食べられており、手作りのおやつも好評である。ご利用者もツワの皮むきやお茶の袋詰め等をして頂いている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事、水分量をチェックしている。不足の場合には言葉かけし促している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 起床時、毎食後言葉かけをし、ケアを実施している。困難な方は職員が介助している。定期的な歯科医師、衛生士の往診もある。口臭のある方にはデンタルウォッシュを使用し改善している。 | | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 起床時、毎食後など1人ひとりの排泄パターンを把握しトイレへ誘導している。 | トイレでの排泄を大切にしており、布の下着を着用する方もおられる。下肢の筋力を付け、トイレに座れるように努めている。職員はご利用者個々の排泄感覚を把握し、個別の誘導を行っており、パッドの種類も個別に検討している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 野菜などもメニューに多く取り入れている。牛乳を飲んでもらったり、腹部マッサージをしている。医師に相談し指示のもと、下剤の与薬や浣腸など行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | その日の体調に合わせて湯温の設定など希望に沿うようにしている。入浴拒否の方には声かけ対応している。入浴剤を選んでもらったりして楽しみの一つにしている。 | 湯船に浸かられる方が多く、希望や体調に応じてシャワー浴や清拭、陰部洗浄等も行われている。できる所は洗って頂き、職員との会話を楽しまれている。冬場は血行促進のための足浴も行われ、菖蒲湯やゆず湯も楽しまれた。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 出来るだけ日中はリビングで過ごして頂き、夜にぐっすり休んで頂くような声かけをしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 各人のお薬手帳を随時確認できるよう、個人様の薬箱に保管している。錠剤を飲めない方は、薬局に相談し粉碎してもらっている。随時薬が出た際には申し送りや伝達している。確薬している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 誕生会や夏祭り、クリスマス会など行い、入居者様ご家族、外部の方との交流をもてる機会を設けている。バレンタインデーにはチョコバナナ、トリュフ等手作りおやつに参加してもらっている。昔を懐かしみながら、つわむきを手伝ってもらったり、お茶の袋詰めをしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 近隣の薬局に行く時、買い物にお誘いしたり、入居者様の状況に応じてながら支援している。ご家族の協力を得て、行きつけの美容院に行ったり、眼科などの他科受診の為に外出されている。 | 近隣のお店に買い物に出かけたり、個別の希望に応じて郵便局にお連れしている。季節に応じて、バラ園の見学や桜の花見にも行かれている。家族と自宅に帰られたり、お孫さんの結婚式に出席できた方もおられ、職員が同席して、葬儀に参列できた方もおられる。 | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご本人の希望があれば、ご家族と話し合っ て財布を所持したり使えるよう支援してい る。希望がある時は買い物など職員が付き 添いして行っている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている | ご本人より要望があった場合にはご家族に 連絡がとれるように対応している。携帯電話 を使用されている。手紙を書かれる方から 依頼があればハガキを購入したり、投函し ている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴 室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をま ねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がな いように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、 居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節の花を生けたり、飾り付けをしている。 季節に応じた貼り絵など入居者様と手作り した。 | ビルの4階にホームがあり、リビングからの見晴ら しも良い。4階のエレベーターを降りて右に行くと 外廊下があり、歩行訓練をしながら町並みを眺め る事ができる。リビングには除菌・消臭専用霧化 器もあり、換気も心がけている。リビングで過ごさ れる方も多く、個別の足置きを手作りし、安楽に座 れるようにしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の 工夫をしている | ホーム内を散歩する際、外廊下の窓から外 の景色を眺めてもらい、気分転換を図って いる。職員休憩室の畳に腰をおろし、談笑し てもらえる空間を作っている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相 談しながら、使い慣れたものや好みのものを活か して、本人が居心地よく過ごせるような工夫をして いる | 敬老会のお祝いにプレゼントした色紙を居室の壁に掲 示している。入居時には馴染みの物を持参して頂いてい る。お位牌、ご仏壇など置かれている入居者様のお祈り する姿をよく見かける。居室で長く過ごされる方は、テレ ビ、ラジオを楽しまれている。 | 女性の方は手鏡や化粧品、裁縫箱等を持参して いる。職員と一緒に仏壇にお水をお供えし、手を 合わせる方もおられる。生け花用のはさみと花器 も置かれており、生け花をして頂くこともある。写 真や人形、ぬいぐるみ等も飾っている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかるこ と」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している | 各部屋入口に表札を下げている。出来る方には たたんだ洗濯物を各自タンスに収納してもらった りと、自立に向けての支援をしている。建物内部 には手摺りを要所につけ、歩行を安全にして頂く よう工夫している。 | | |